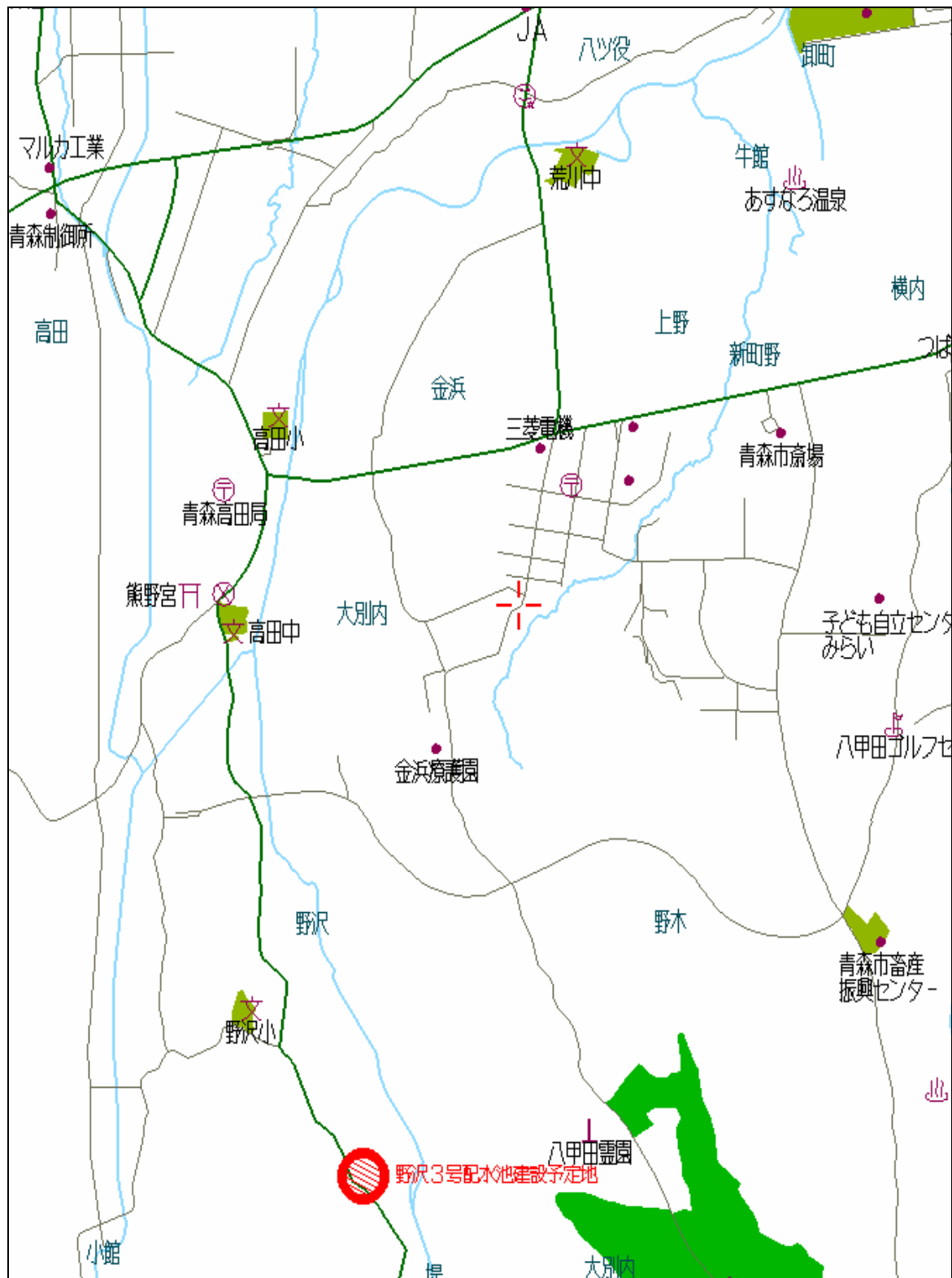


景觀審議會資料
野沢 3 号配水池建設工事
(設計段階)

青森市企業局水道部整備課

1. 位置図

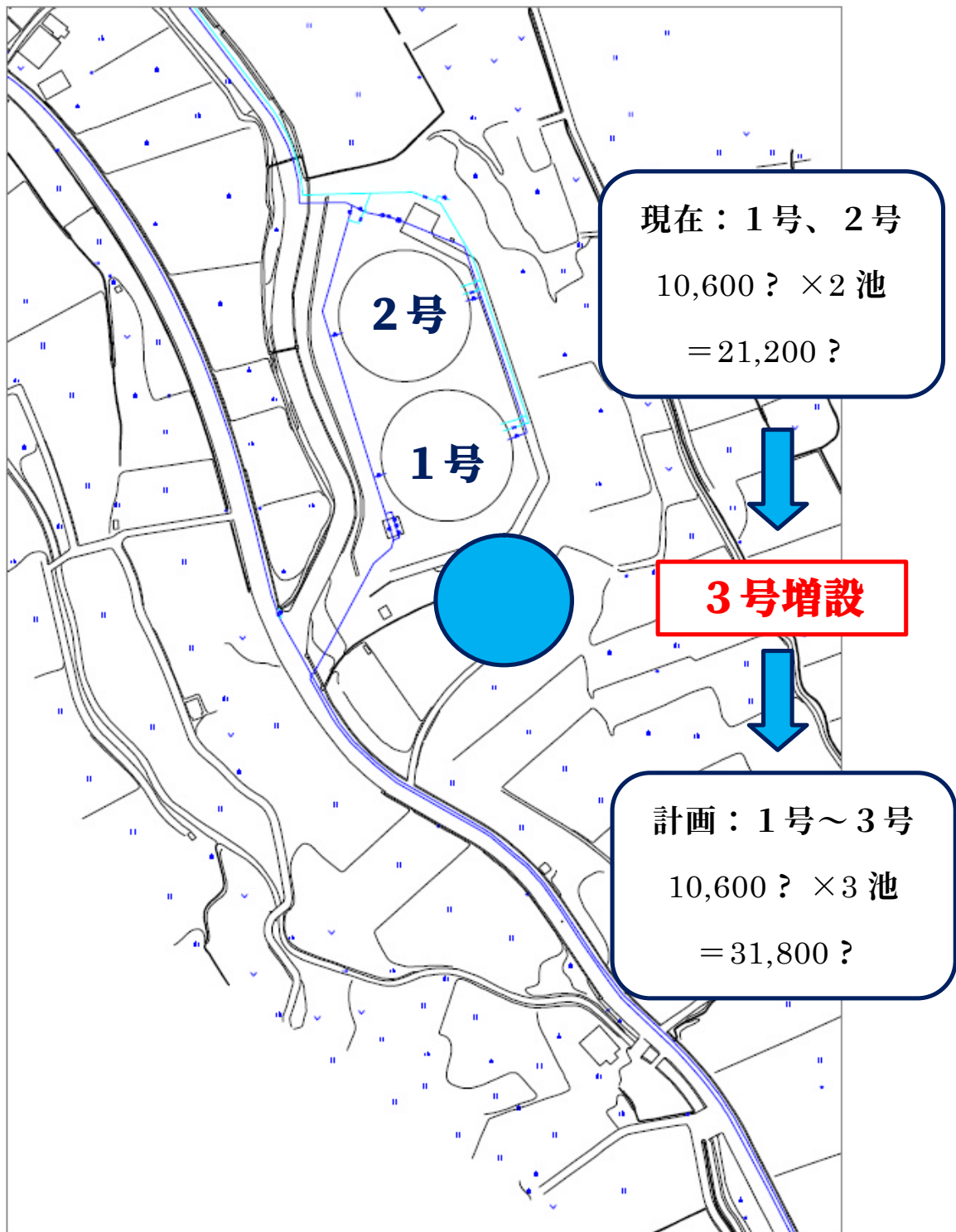
当該建設地点は、下図のとおり青森市南西部の野沢地区に位置する。



2. 事業概要

既存の野沢配水池1、2号は、2池で21,200m³の容量を有しているが、同配水池に水道水を供給している堤川浄水場の施設能力は61,000m³/日であるため、計画施設能力に対して8時間の貯留量となっている。

水道用配水池の貯留量の施設基準は12時間を標準としていることから、新たに同規格の野沢3号配水池を建設し、12時間分の飲料水を確保するため、平成24年度に設計を実施し、平成26年度に着工する計画である。



3. 現地写真

3号配水池は、現状の水田を買収し建設を行う予定である。

1) 写真1



2) 写真2



3) 写真3



撮影方向図



4) 写真4



5) 写真5



6) 写真6



4. 景観に関するデザインコンセプト

当該施設を建設する周辺地域は、田園地帯が広がる青森市景観計画に定める自然的景観（田園地域）の保全に努めるべき区域であり、背景は森林を眺望する緑豊かな地域となっている。

配水池建設計画は、公共の建築物として自然との調和を図る景観基準に合致させ、建設地は芝生での緑化に努めるとともに、景観の連続性を考慮し既存配水池と同色かつ同形状で建設することとする。

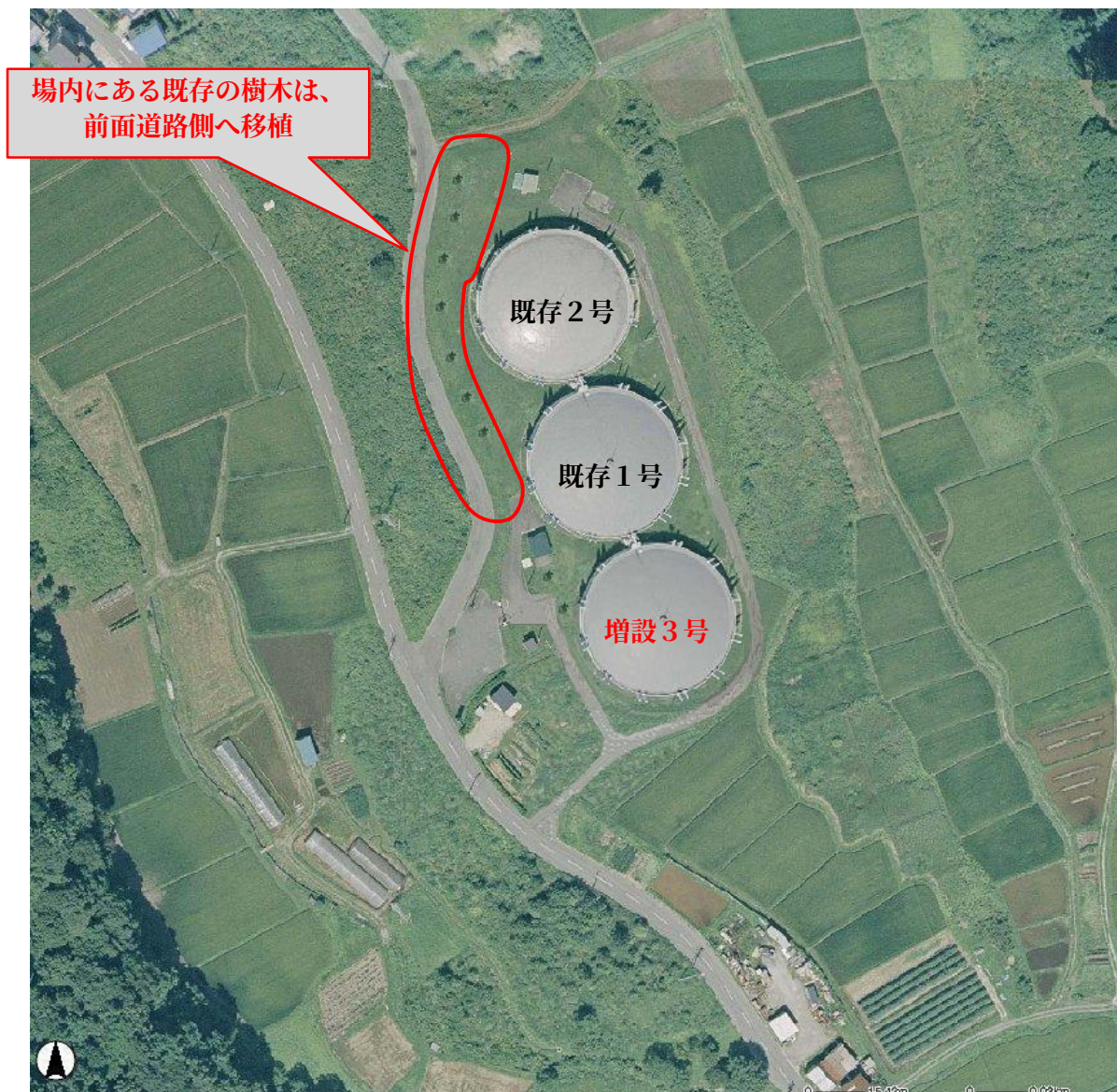
また、当該施設は比較的大規模な構造物であることから歩行者の圧迫感を緩和するため、前面道路から約30m離れた場所に建設する設計である。

野沢配水池は、水道水を貯水するタンクであり、第一に清潔感が必要とされるため、既存の配水池は白を基調とした中に水色の柱をアクセントとし水道水を表現しており、3号配水池も同色とする。



5. 配置図

増設する3号配水池は、既存配水池の南側に配置する。



6. 図面（平面図、側面図他）

1) 配水池の構造

本配水池は、直径が約4.4m、地盤面からの高さが約1.2mのPC配水池（円形）であり、既存配水池と同じ形状、規模で設計している。

配水池の外側に張り出している柱は、PC鋼棒（緊張荷重をかけた鉄筋）を固着するための定着柱である。

なお、増設する3号配水池の構造・規模及び形状については、平成24年4月23日開催の平成24年度第1回青森市景観審議会です承を頂いているところである。

2) 塗装色

本配水池は、水道水を貯水するタンクである。

水道水は第一に清潔感が必要であるため、既存の配水池は白を基調とし、定着柱は水柱をイメージした水色となっている。

配水池の塗装色については、昨年の第1回景観審議会において、「周囲の自然と調和する色彩となるよう検討するように。」との意見を頂いたところである。

増設する3号配水池は、既存の配水池に近接して建設するため、施設全体に一体感を持たせる必要があることから、本配水池の塗装色は既存配水池と同じ配色とする。

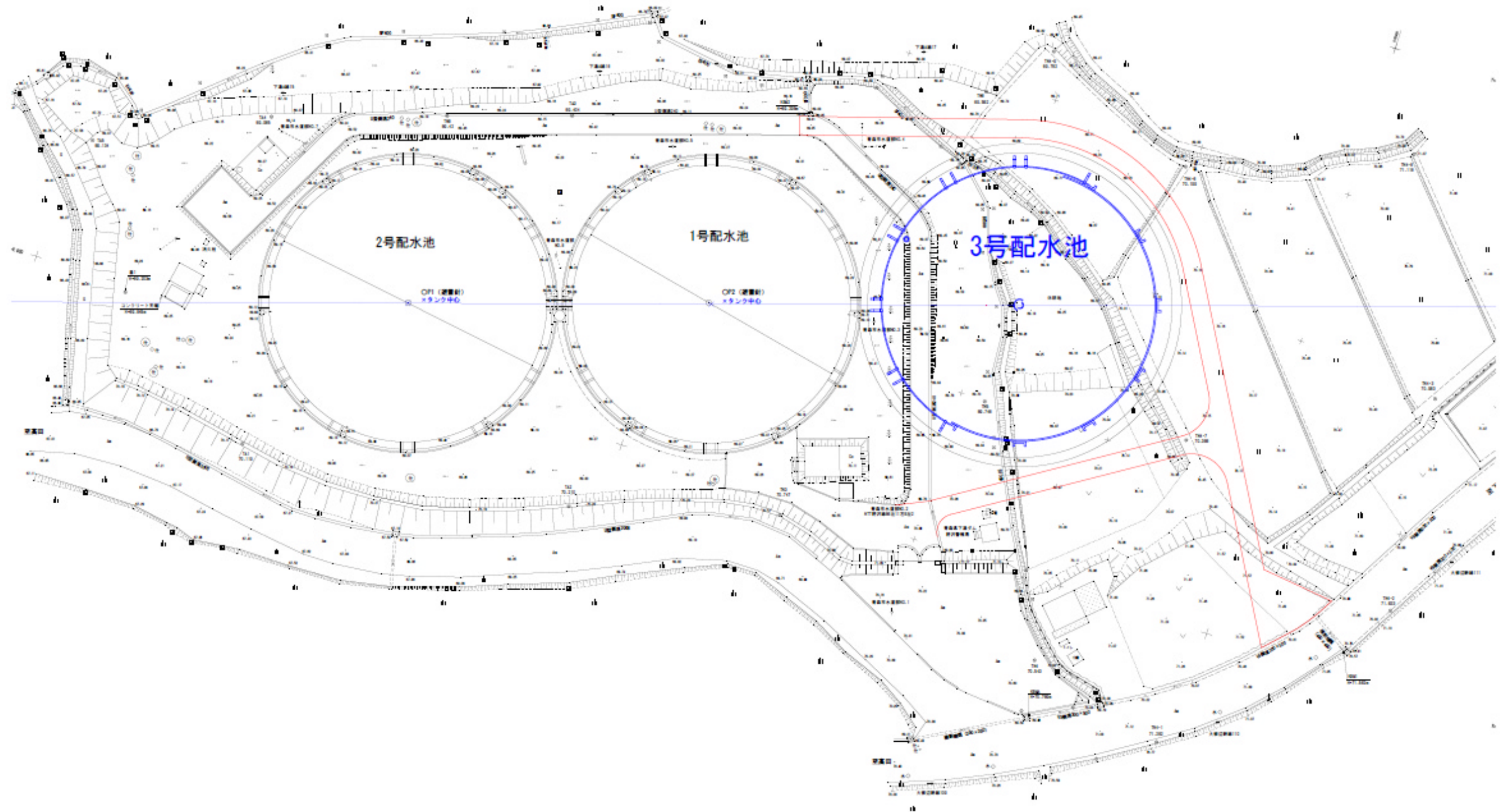
なお、使用する色については、青森市景観計画で推奨されている明度の色とする設計である。

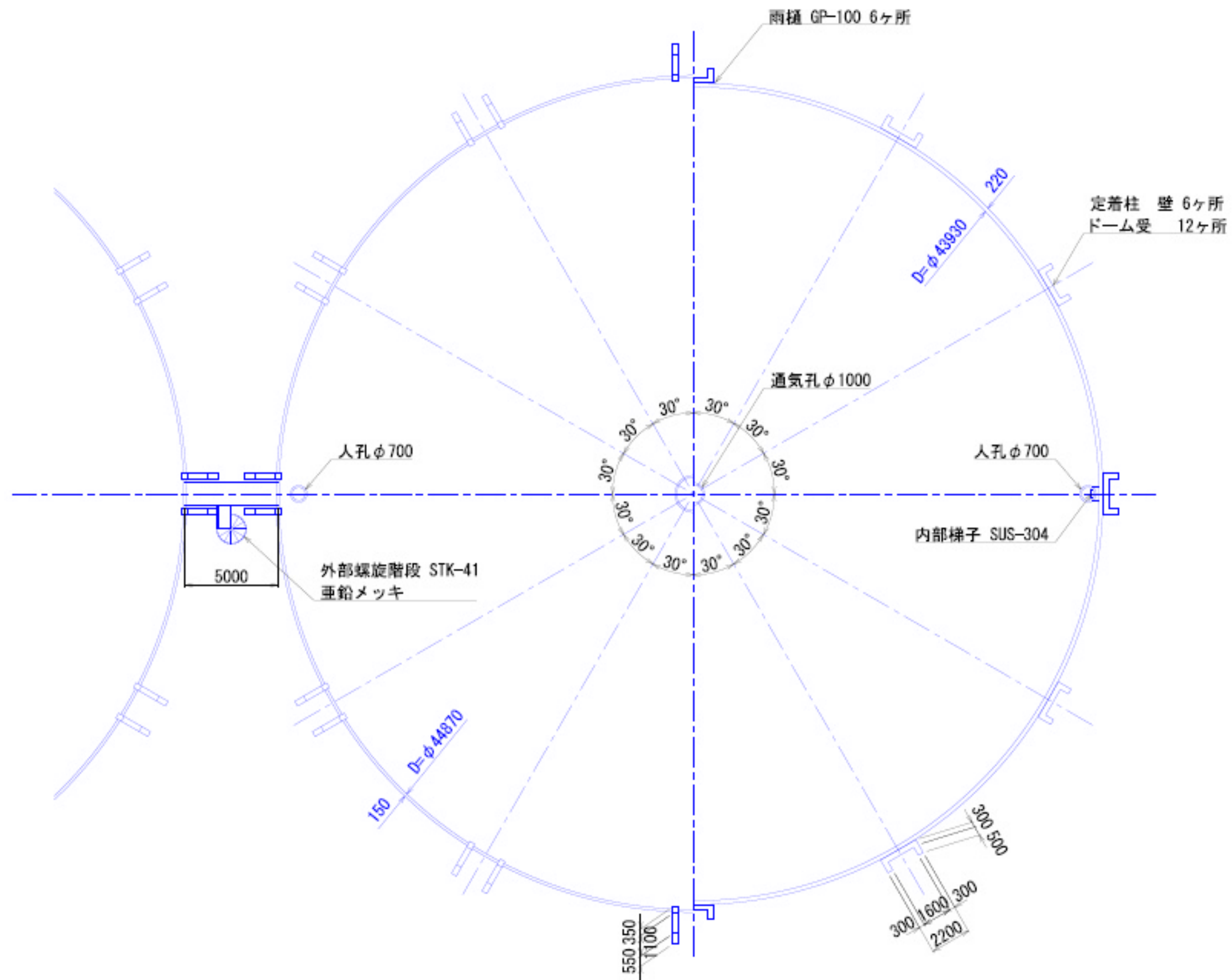
3) 前面道路への樹木の移植

既存配水池は、前面道路からの離隔距離が最も近い所で約1.0mとなっている。また、増設する3号配水池と前面道路との離隔距離は約3.0mとなる設計である。

昨年の第1回景観審議会において、「施設の圧迫感を軽減するため、施設の周囲に高木を植えることも検討するように。」との意見を頂いたため、現在、1号配水池南側に植えられている「松」を全て前面道路側に移植し、圧迫感の軽減を図る計画である。

平面図





野沢3号配水池

自然が豊富な環境で街並みや人工物どうしとの調和ゾーン

基調色 色相 2.5YR~7.5G 明度5~8 彩度0.5~3

色相 10R~7.5G 明度2~5 彩度0.5~5

準基調色 色相 10R~7.5PB 明度5~9 彩度4以下

色相 5R~7.5PB 明度2~5 彩度5以下

断面図 S=1:100

箇所	マンセル値	色合い	備考
屋根	N5	(暗灰色)	基調色 (明度2~5)
壁面	N8	(薄灰色)	基調色 (明度5~8)
柱	10B8/4	(水色)	準基調色

